

京都三条大橋ー日本橋 東海道シリーズ 吉田宿ー池鯉鮒宿編 走り旅

二十年七月十三日

フル百回楽走会
593
武藤 翔峰

7月13日(日)東海マラニッククラブ呼びかけの第一回旧東海道マラニック吉田宿(豊橋)ー池鯉鮒宿編が行われ、フル百会員11名を含む42名のメンバーが参加しました。このコースは御油の松並木など愛知県内で残されている旧東海道の貴重な名所旧跡を辿るものです。しかし、梅雨が明けたのではないと思われるくらい強い日差しの差込み、気温も35度以上に感じられ、ゴールの池鯉鮒宿まで完走したのは、篠田さんはじめわずか4名だけで、他のメンバーは熱中病などの防止と身の安全を第一に考え、岡崎宿でゴールとしたり、途中から電車やバスに乗って勇気あるリタイアを実行しました。

11km	3km	9km	7km		
吉田	御油	赤坂	藤川	岡崎	27 曲がり最終
8:20 スタート	10:40	11:07	13:13	14:55	15:47 ゴール



班長：木下さん組



班長：篠瀬さん組



吉田宿からスタート



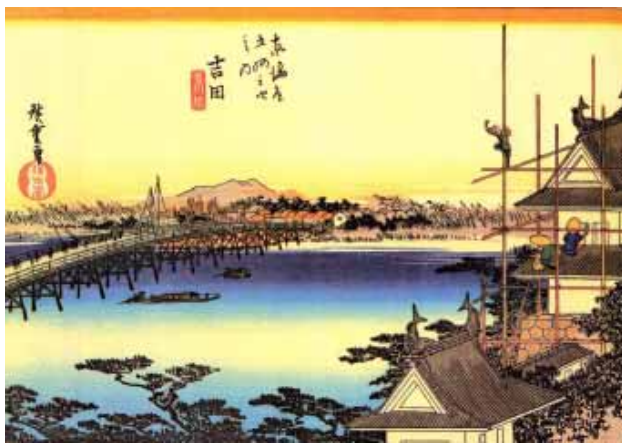
御油松並木



藤川宿



岡崎宿にゴール



吉田宿（よしだじゅく）は、江戸時代に設定された東海道五十三次の江戸側から数えて34番目の宿場である。現在の愛知県豊橋市中心部に相当する。江戸の日本橋より西方73里（約287km）に位置し、東の二川宿とは1里20町（約6.1km）、西の御油宿とは2里20町（約10.5km）離れており、町並は23町30間（約2.6km）の長さがあった。征夷大将軍の徳川將軍家の老中・大坂城代・京都所司代格の大名の吉田藩の所領であり、吉田城下町と湊町（吉田湊、船町）を合わせた宿場町であった。本陣が2軒、脇本陣が1軒、旅籠は65軒あった（1802年）。戸数は約1,000軒で人口は5,000から7,000人ほどであった。





御油宿（ごゆしゆく）は、品川宿から数えて35番目の宿場。現在の愛知県豊川市御油町に所在する。街道の面影を残す松並木（御油の松並木）が美しいことから観光地になっている。1601年に徳川家康が江戸日本橋から数えて35番目の宿駅として開設。本陣が最多時4軒。最少時2軒。江戸風俗史にある尻尾の短い猫は御油猫と呼ばれ流行したが、御油から持ち込まれ、御油・赤坂の宿場駅間の短さを尻尾に例えて呼ばれた。明治維新後、宝飯郡役所が置かれ、郡の中心になったが、東海道本線の経路地に選ばれなかったため、鉄道開通後は鉄道が通じた御津や蒲郡に繁栄を奪われた。

